

第1学年国語科学習指導案

日 時 令和2年8月31日(月) 5校時

児 童 1年1組 20名

指導者 教諭 森 萌華

1 単元名

「たのしいな ことばあそび」(光村図書)

2 児童の実態

国語の「書くこと」に関しては、ひらがな書きがほぼ定着し、思いを表現できるようになってきている。また、家庭学習において文や言葉を書く課題を与えると、意欲的に、熱心に練習をする児童が多く、自分の力で書き切る児童が増えている。

これまで、語彙を増やす学習では、ひらがなのことばで3分間の言葉集めの活動を行い、いろいろな言葉を見つけ、言葉と事象についてつなげて考えてきた。当初は、10個以上の言葉を集める児童は少なかったが、現在は、半数以上の児童が10個以上の言葉を集めることができるようになっている。

本単元でも、これまでの学びを活かし、さらに言葉に興味を広げ、1年生としての語彙力を高めるように指導したい。

3 単元の指導目標

◎身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。【知(1)オ】

○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。【知(3)イ】

4 本単元と研究との関連

本年度は、仮説1の「言語活動において、指導内容の系統性を踏まえた上で、読書に親しむ活動を取り入れたり、繰り返しの学習を効果的に位置づけたりすることにより、子どもは確かな言語能力を身に付け、学んだことを生かして学習に取り組むだろう」という、仮説を検証するために、①読書指導の改善・充実、②指導内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫、③言語活動例の活用、④効果的な繰り返し学習の工夫、ということに力を入れて授業を行っている。このような手立てをもとに、確かな言語能力を身に付け、学んだことを生かして学習に取り組むことのできる子の育成をしていきたいと考える。

本時では、④効果的な繰り返し学習の工夫として、ひらがなの復習をする。たくさん並んだひらがなの中から、言葉を探し出すことに取り組ませる。学期の間に多くのひらがなを学んだことをたたえ、「こんなに読めたり、書けたりするようになった。」という喜びと自信を児童にもたせ、これからの文字学習への意欲を高めたい。

また、②指導内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫として、たくさんの言葉を見つけると同時に、言葉を整理するおもしろさも味わわせたい。例えば、「ひ」の場合「日」「火」、 「め」の場合「目」「芽」のように異なる意味を有していることに気づき、見つけた言葉をいろいろな角度から眺めることによって、児童に新たな気づきが生まれる機会としたい。

5 単元の授業過程(全2時間)

次	時	学習活動	評価規準
1	1 (本時)	① かくれている言葉を見つける遊び方を確認する。 ② 言葉を見つけてノートに書き、発表する。	・身近なことを表す語句の量を増やし、語源を豊かにしている。知(1)オ ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。知(3)イ
2	2	① 言葉遊びの問題を作る。 ② 友達と交換して問題を解く。 ③ 学習の振り返りと継続の見通しを確認する。	・これまでの学習をいかし、積極的に言葉遊びに取り組み、自分でも言葉遊びを作成しようとしている。

6 本時の学習

(1) 目標 かくれている言葉を見つけ言葉を増やすことができる。

児童の学習活動	研究内容との関連	教師の支援・評価
1 学習の見通しを持つ 2 課題を知る		○教科書を読み、本時の学習の見通しを持たせる。
かくれていることばをたくさんみつけ、ことばをふやそう。		
3 言葉集めのやり方を知る。 ・たて ・よこ(右から、左から)・斜め 4 言葉集めをし、ノートに見つけた言葉きれいを書く。 ・やかん ・いちねんせい ・なつ ・なつやすみ	④ 効果的な繰り返し学習の工夫 ・学習をしたひらがなを思い出しながらノートに書く。	○やり方を理解しやすいように、1度教師がやってみる。 ○見つけるのが困難な児童に、動物の絵やヒントとなる絵の描いたお助けカードを用意する。
5 ペアで見つけた言葉を発表しあう。		○ペアで交流することで自分の見つけたもの以外にも隠れている言葉があることを理解する。
6 見つけた言葉の説明ができるように準備する。		・見つけた言葉をペアの相手の言葉を1つ選び短冊に記入できるよう準備する。
7 発表する。 ・いちねんせい ・やかん ・自分が見つけられなかった言葉に赤鉛筆でしるしをつける。	②指導内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫 ・友達が見つけた言葉を発表する。	【評価】 ・お友達の見つけた言葉を発表することができるか。 (発表の様子)
8 本時のふりかえりをする。 9 次時の見通しを持つ。		・次時の見通しが持てるよう説明する。

(4) 板書計画

